

2020年に向けての国際LNG市場の展望

The Global LNG Market Evolving Toward 2020

橋本裕* ・ 藤島弘治** ・ 柿原 貴***

Hiroshi Hashimoto, Koji Fujishima, Takashi Kakihara

1. はじめに

世界のLNG市場では、加速する生産設備の拡張の傾向により、価格に下向き圧力が加わるとともに、世界中で新たなLNG市場の台頭を促し、伝統的に供給地域である中東、東南アジアが、同時に大消費地となる可能性が増している。

このようなトレンドの中で、プロジェクトを推進するためには、最終市場まで含めたバリューチェーン一環の流れを確立することが、鍵となる。

2. 史上空前の拡大を続けるLNG市場

2009年以降、世界のLNG産業は空前の拡大を続けている。2007年から2012年の5年間に世界の液化設備容量は50%拡大することが予想されている。

カタールは、2009年3700万トンのLNGを輸出し、単一国の単年のLNG輸出数量として史上最大を記録した。カタールは2010、2011年残りの超巨大液化設備系列完成により、さらにこの数量を倍増することが予想される。

ロシアのサハリンLNG輸出設備は、ロシアにとっても天然ガスで初めて太平洋市場に出たものであるとともに、太平洋の需要家側にとっても新たな大供給源となる。

2009年追加・新規生産を開始したLNG輸出プロジェクトは全て、複数のOECD、および非OECDの市場に供給のコミットメントを持っている。

3. アジア太平洋市場のハイブリッド構造

現在のアジア太平洋のLNG市場は、中国、インドの急速に成長する市場と、日本を含む伝統的なLNG市場が共存し、新規・拡張の大型LNGプロジェクト開発者はこの両方を組み合わせてマーケティングを行っている傾向にある。

2011-12年以降は東南アジア地域が、従来のパイプラインガス市場・LNG輸出地域という性格に、LNG消費地域という新たな側面を加えることにより、アジア太平洋市場の多面性が深まることとなる。

4. 東南アジア、中東、南米の新興LNG市場

東南アジアでは、シンガポール、タイでLNG輸入基地が建設中であるとともに、従来のLNG輸出国であるインドネシア、マレーシアでも受入基地計画が進展中である。

上記4ヶ国にベトナム、フィリピン、ブルネイを加えたASEANのAPECメンバー7ヶ国全体としてのガス市場の規模では、2009年実績で1480億m³と、日本、中国よりも大きくなっており、これら諸国は、LNGという手段を通じて市場を接続することにより、流動性を高めれば、価格決定面でも国際市場に大きな影響を持つてくる可能性もあろう。

これらの諸国に先行して、過去3年間に南米、中東でLNG輸入が既実現している。

5. 変貌するLNGの役割

LNGは世界的に見ると、未だガス供給全体の8%弱を占めているに過ぎず、ガス産業の他の部分と比較して急速に成長している。長期取引が核となっているが、短期的な数量を供給する柔軟性が拡大していることにより、地域単位でのエネルギー供給の安全保障を提供する上での役割は拡大している。

6. まとめ

LNGは、世界のガスビジネスの中で、今後も最も急速に成長することとなるが、フォーカスもシフトする。伝統的市場は引き続き重要だが、新興市場の需要が増加する。LNGはかつてのプレミアムエネルギー源から、より広範囲で利用される基幹的なエネルギー源へと成長している。

LNGはグローバルのガス市場間の接続を深め、地域間の価格に影響していく。地域価格間の融合を進めるとともに、地域内で複数の価格が混在する状況を生み、一部の国では価格改革を必要とさせることにつながっていく。

LNGは今後、役割と市場範囲を拡大していくこととなる。東南アジアが従来の重要な生産拠点という役割に加えて、ガス消費地域として重要度を増しており、LNG導入が加わることにより、構図が変化していくことが予想される。

従って、新たなリスク（複雑化する市場、競争激化）とともに、ビジネスの機会が生まれることが予想される。

* (財)日本エネルギー経済研究所
戦略・産業ユニット ガスグループ主任研究員
〒104-0054

東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ 10F,11F
e-mail: hiroshi.hashimoto@tky.ieej.or.jp

** 同研究員

*** 同研究員